

マッチング

- 生の人と人のネットワーク作りが大事。愛着があってまちが好きだが、関わり方が見つけられないという人をどうマッチングするか。その仕組みづくりを、いかにNPOや地域の活動団体に渡していけるかが大事。【B】
- 「コンシェルジュ(中小企業、観光、農業)」を作っていくことが大事。【B】
- 「人と人」のマッチングだけでなく、「人と社会」、「人と企業」といったマッチングも必要ではないか。【ヒ】
- 引きこもりの子ども達を上手くマッチングしないと、市としての成長に問題となるのではないか。【ヒ】

PR

- 広報で、市民農園、空き家等を募集していることを上手にPR。【全・B】
- 待機児童ゼロをPRしたらどうか。【全】
- 専門家が犬山について話していることは、興味深く聞くことができる。こういった会議の話＝自分達のまちをこんなふう考えていること、企画広報課がやっていること、そういうことがもっと分かるといい。【全】
- 定住について何かキャッチフレーズがあると良い。【ヒ】
- 災害について恵まれている＝「安心して住めます」を売りにしてはどうか。【ヒ】

とりこぼさない

- 高齢者(古い価値観を持って生きてきた人－60歳以上の人達)も含めて、うまく回るといい。こぼれてしまう人達も含めて、上手く回るといい。価値観の変化に乗り切れない人達のこと忘れずにすることが、まちの懐の深さにつながっていく。【A】
- 高齢者、子育ての人達が、疎外感を味わってしまうことがないように、孤立させない。誰一人孤立させないような交流のあるまちになることを望む。【全】
- 自殺対策。働ける人が亡くなってしまうと経済損失という面もある。そういう人を、納税できる形に戻すことは、自殺対策としても有効だし、市の反映にとっても大事。「失わない」ことも大事ではないか。最近、ガンの人が仕事を続けられるシステムということも言われている。フォローも一緒に考えないと、こぼれているところが出てしまうのはもったいない。【B】
- 発展とともに底上げも考えていかないといけない。こぼれ落ちたりする人もいる。病気の人、自殺する人等。そういう人も底上げをすることによって、全体的な経済、健康の維持につながるのではないか。【全】
- 家にこもらざるを得ない若者、仕事をやめざるを得なかった30代、子ども達と一緒に住むことが許されなかったお母さん達。いろんな人達が生まれていることに目を向けて、市民が幸せな社会づくりからこぼれていかないように、フォローしていくようなまちであるべき。皆で**マッチング**をしたり、話し合ったりということが大事。【B】
- 良いまちを作ろうというときに、非常に苦労する人達が出てくる。どこで出てくるか見据えながら、目指すべきまちを市民と一緒に作っていくことが大事。【B】

その他

- 「子育て支援」「若い人達が住みやすいまち」＝どこの市町も同じことを言っている。犬山ならではの手一つか二つ出さないといけない。【A】
- 子育てにおいて魅力的なまちづくりを望む。全体的には減っていく人口でも、「犬山は魅力的だからここで子育てしたい」と思えるような環境になることを望む。【全】
- 人口減少に歯止めをかけるという点で、これからの世代＝自分の子ども世代が、再び子育て世代になったときに、再び帰って来てくれる犬山市になると良い。【全・A】
- 「市民活動」に目標(KPI)を立てることがいまいよく分からない。【A】
- 課題の裏側に、必ずメリットがある。そこを上手く使える作戦を考えられると良い。【全】
- Society5.0について、今後どうやって考えていくのか。【A】
- 「人とのつながり」、「世代間交流」等が魅力あるまちづくりの基本になっていくのではないか。【A】
- 市民がイキイキと暮らすまちがイキイキとしたまちになる。そのために、スタンスが違う人達が交流を持って、違う意見を聞いたりして、レベルを上げていけばいい。【全】
- 活動をするためには、色々な面倒くささがあるが、社会にとって本当に必要な次への施策は、こういう面倒くささを経ないと生まれてこない。本当に地域を良くしようと思ったときには、スピード感は大事だが、そういうところを支える仕組み作りが必要。面倒くささを惜しまないことが、結果、良いまちづくりにつながる。【B】
- これからのインフラは、行政だけがやるよりも、民間が工夫してやれるように促していくことを行政側が働きかけることも大事。【B】
- 犬山には住み続けたいのだが、暮らしていく上で、目標が見出せない、あるいは楽しみが見出せない、そして愛着を感じるということができづらくなっている。いろんな年齢層の中で、その力が活かされていない、世帯が小さくなる中で無縁化が進んでいるのではないか？無縁の中の絆づくりを、目標にしていかなければいけないのではないか。【全】
- 市民が身近になるまちづくり、市民を巻き込む形になると良い。【ヒ】
- 市としての横のつながり、総合的な窓口があると良い。(なんでも相談できる窓口があると良い。【ヒ】)

凡 例	
A	Aグループ内の意見
B	Bグループ内の意見
全	全体に戻ってからの意見
ヒ	欠席委員からヒアリングした意見

基本目標 気持ちいい住環境

“暮らしたいまち”がある

住んでほしい 住み続けてほしい

- 若い人達が定住するには産業がないといけないし、まち自体に魅力がないといけない。【A】
- 帰って来て子育てをする世代の取り込み＝次の世代を育てる市、という特色があると良い。【A】
- 子育てにおいて魅力あるまちづくりを望む。【全】
- 教育では、ICTに関することが犬山は遅れている。【A】
- 子ども未来園、児童センターに魅力を感じない。保育士が少ないから、手厚くない。どの建物も老朽化、衛生的にも汚い。ソフト面は、努力していると思うが、ハード面で魅力がない。何年後かのために計画を立てる必要があるのではないか。【B】
- 企業がコミュニティを置く時代ではないか。働き、生活をしていく従業員達のまちの中にマーケットを見出して、コミュニティを売る。【B】
- 外国人の数が増えていることをポジティブに、多様性がある、インクルーシブのまち、と捉えることができれば、その状況をどう作っていくかということは喫緊の課題。外国人への理解、そのサポート。「多様性を犬山は担保します」という方針を示すというのは、今後、大事なことでないか。【B】
- UIターン。若い人達が帰って来る施策があると良い。【ヒ】
- 道の駅をきっかけに犬山市を盛り上げていきたい。【ヒ】
- 移動支援は非常に重要。人が集まりやすい場所までの移動支援。【ヒ】
- 災害について犬山市は恵まれている。【ヒ】

○給食や名経大の学生が考えたメニューを、若い世代のお母さんを集めて、給食の献立メニューと一緒に再現（学生が先生、受けるのがお母さん）。学生のやりがいや市民活動になるのではないか。【A】

○空き家バンク。もう少し情報が出てきたり、大手の不動産業者とは違った形で、市独自の色が出せると、もっと集まるのではないか。【B】

○抜け道対策をやってはどうか。【ヒ】

基本目標 居場所と出番

“活躍したいまち”がある

しごとがある 誰もが活躍できる

- 市民活動をすると、行政と絡むことも多く、まちのこともよく分かる。結果、自分の住んでいるところが好きになり、住みついていくのではないか。【A】
- 人と人のつながりを作る上で市民活動は効果がある。【A】
- 行政も本気でやれば市民活動は増える。戦略の中に入れて本気度を見せてもらえれば。【A】
- 市民活動が、年代的にある程度若いところをイメージしてしまうのではないか。そうするとなかなかやれない。【A】
- （名経大）学生たちは、やりたくないというわけではないので敷居を下げる。また、ロイヤリティを持たせるとすごく喜ぶ。【A】
- 老人が子育てを応援する市民活動団体というものが出来たら、世代間交流も一気に進む。【A】
- 校区全体でコミュニティの裾野を広げると良い。【B】
- 犬山に誇りを持っている人が多いにも関わらず市民活動が活発にはなっていない。そこにギャップが生まれている。個人の思いが、まちづくりにまでまだ接続されていないのではないか。NPO団体とか、大きさに関わらず、一人一人の個人がまちづくりに参加できるようなマッチングであるとか、接点をいかに準備していくのか。【B】
- 地域によって温度差があるのではないか。若い人達もやりたくないわけではない。ジェネレーションギャップを感じているのではないか。【ヒ】
- 移動支援をすればもう少し市民活動も盛り上がるのではないか。足がなければ活動もしにくい。【ヒ】
- 今後、まちづくりにおいて大切なことはひとづくり。地域の自治や協働の機能を担う組織＝地域運営組織への本格的な支援を提案したい。【ヒ】

○農業で生計を立てている人はほんの一握り【B】

○耕作放棄地対策。農業委員会で手を打っているが難しい。【B】

○農薬を撒くから田に生物がない。アレルギーの原因にもなる。現実的には、農薬を使って大きな機械でやらないと成り立たない。非常にジレンマ。【B】

○農業をやりたい人はいるのではないか。マッチングが必要。そこに市が関わることは非常に有益。（貸したい人、やりたい人、農業の専門家）【B】

○耕作放棄地はこれからどんどん増える。どうしていくかが課題。【ヒ】

○事業承継支援に取り組んでもらいたい。（マッチング）【ヒ】

○企業誘致にも力を入れて欲しい。工業団地等。

○犬山の若者達が動き始めているかもしれない。そういう若者の、声なき声を拾い上げることをしたら面白いのではないか。【B】

○若い人達が、田舎のメリットを享受しながら面白い仕事をしているというモデルができたらいのではないか。【A】

○働く意欲のある人は年齢に関係なく、公共機関においても、どんどん活用して、少しでも社会に貢献していただく。健康市民の増加にもつながるのではないか。【B】

基本目標 人の交流

“訪れたいまち”がある

住む人の誇りを高め 訪れたい人が増える

観光関連

- 定住人口を増やすことも大事だが、「観光のまち」なので、＝交流人口を増やすことも大事。【A】
- （観光で）たくさん人を呼べているので、そのメリットをどう活かすのか。【A】
- 犬山城、城下町が犬山市の4番バッター。そこを利用する＝そこに出て行って、自分達の地域を売り込む。【A】

（観光戦略へ）

- 地元の人が商売をしていない。儲かるから来ている人は、人がいなくなったら去っていく。【A】
- 高山線のアナウンス。犬山の市民が伝えたいことを犬山の人の英語で語るぐらいのセールスをJRもしないとまずいのではないか。【B】
- 観光地が市民参加体験交流型の観光地になってきて、質を問う時代。犬山の観光都市作りはどういう点で質を目指すのか。【B】

○交流はどんどんやった方が良い。違う価値観の方の意見を伺うというのはとてもいいこと。【A】

○人が来てくれることのメリットをもっと伝えるべき。観光客、外国人も同じ。接点にいる人達が発信すると良い。軋轢とか摩擦を事前に、関わっている人達が上手く解決していったらいいと思う。【A】